

令和2年度第2回 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議 地球温暖化対策部会
議事録

- 開催日時: 令和2年8月25日(火) 10:00~11:55
- 開催場所: 西宮市役所 本庁舎8階 813会議室
- 出席委員: 清水委員、小川委員、田中委員、西明委員、北詰委員
加美田オブザーバー、川崎オブザーバー
- 事務局: 宮島環境局長、岩田環境総括室長
(環境学習都市推進課) 小田課長、八木係長、吉田係長、松浪主事、伊藤主事

1. 令和2年度年間スケジュールについて

事務局より説明、質疑なし。

2. 令和2年度地球温暖化対策関連事業について

事務局より説明、質疑なし。

3. 省エネ行動モニター事業分析結果(中間報告)について

委員より説明

- モニター結果から得られた西宮市のエネルギー使用量は、西宮市全体のエネルギー使用量とどのぐらい差があるのか。それほど差が出ないのであれば、定期的にモニターを実施することで、エネルギー使用量や省エネの効果把握できるのではないか。(委員)
 - 48万人のうちの450件のモニター結果、わずか0.1%の結果に過ぎない。これを全体集計としてしまうと効果が見えづらいが、世帯人数ごとの傾向と効果はある程度把握できるのではないかと。(委員)
- 太陽光発電設備が導入された世帯で電気使用量の増加傾向があったのは意外だった。(委員)
 - 設備の導入による効果を見るのであれば、太陽光発電やエネファームの導入前後のデータがあれば、導入による効果がわかる。けれども、そういった効果についてはメーカーに聞いた方が早いだろう。(委員)
 - 帳票上、自家消費と売電が区別されず、合せた数値になっている可能性もある。(オブザーバー)
 - 太陽光発電やエネファームの導入により、世帯人数の少ない世帯は使用量が減少し、世帯人数が多い世帯では増加する可能性がある、という記述があるが、エネファームの導入によって電気使用量は減少するので、太陽光発電とエネファームを分けて報告していただきたい。(オブザーバー)
- 今回のモニターに関してはこれだけ多くの方に協力していただいて一定の成果があったと捉えてよいのではないかと。今後も引き続き多くの方に協力してもらえ

ば、大きな成果が挙げられるのでは。今回のような手法はどう評価しますか。(委員)

- 今回得られたデータをグラフや表など分布を示し市民に、パンフレットやリーフレットのようなわかりやすい形のフィードバックを組み合わせられれば良いかもしれない。(委員)
- 当初はどれだけの方が協力してくれるか不安だったが、回答数を見るとやはり省エネ意識の高い市民が多いということでは。(委員)
 - 省エネモニターに協力してくれた人は、省エネ意識の高い人だと思われる。さらに広く省エネを推進するためには、若い世代も意識してネットなども活用しつつ遊び心を取り入れた施策を展開していく必要がある。(委員)
 - 省エネチャレンジといった事業をスタートしている。今後ブラッシュアップし、市民に向けた啓発事業に取り組んでいきたい(事務局)
- モニターで挙げた省エネ行動のうち、空調機の適温設定、必要のない照明をこまめに消す、使わないときはコンセントを抜く、の3つの取組みが効果が大きかった。(委員)

4. 第二次西宮市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の目標設定について

事務局より説明

- モニターの結果からみる限り、家庭部門の削減目標 24.2%は高いように感じる。(モニター結果では頑張っても10%前後)当然、地球環境の事を考えるとむしろ低いかもしれないが。仮にこのままの目標とするならば、そのギャップを埋めるべく何か画期的な新たな施策を打ち出す必要があり、それを今回盛り込むのかどうかの話になる。(委員)
 - 高い目標値を掲げても、現実的でない数値は市民に受け入れてもらえない。そうすると、市として多額の予算を充てて大々的な政策を取らざるを得ないがそれも現実的ではない、となると地球環境から見た高い達成目標は持ちつつも今回のモニター事業のような市民の努力の積み重ねによる目標も示して、その裾野を広げていく方法しかないのかなと思う。(委員)
- 他市との比較があるが、人口規模だけでなく産業構造などについても同じ規模との比較はできないか。(委員)
 - 関西ではあまり思い浮かばない。関東なども含めて探してみる。(委員)
- 夏の空調設定温度についても省エネのために28℃にする一方、熱中症予防のために積極的にエアコンを使用しましょう、という呼びかけもあり、仮に高い数値を掲げたところでどちらをとればいいのか、混乱するのではないか。(委員)
- 前回計画策定の時に話になった「低炭素」か「脱炭素」かの議論と似ている。あの時も政策的には脱炭素を進めたいところだが、市民目線で考えると現実的にはそこまで踏み込めない部分があった。今回も西宮市としては現実的な目標として数値を掲げるというのもありだろう。ただ、その場合でもポリシーとしては高い目標

を持っておくべき。例えば、仮に前回目標が 10%だったから次はもう少し取り組みを積み上げて 15%を目指しますというような感じで。5%の積み上げが妥当かどうかはわからないが考え方としてはそういった方向で。次回以降の会議では数字の把握や運動の積み上げ方についても議論が必要だろう。(委員)

- 緩和策だけでなく、適応策についても充実させていく必要がある。目標設定だけでなく、そういった適応策と抱き合わせて西宮市の地球温暖化対策を進めるという意思表示も重要。(委員)
- 省エネチャレンジの項目を見て、子育てする立場からするとしつけの範疇だなと感じた。親は意識付けが大事だと思い常日頃から伝えていても、子どもは親から言われてうんざりしている部分がある。そう考えると、遊びや楽しい面も必要だと感じる。(委員)
- 環境学習都市として高い目標を掲げれば良いというような単純なものでは無い。市民の日々の暮らしを考慮した目標と緩和策だけでない適応策も含めた方向性が見えたのではないかと思う。(委員)
- 行政の取り組みとして突出している都市はないか。(委員)
 - すぐに思いつくのは北九州市や藤沢市。それらは事業者も含めた地域一体となった取り組み。小さな自治体だからこそ先進都市としてやっているケースはたくさんあるが、西宮市のように住宅都市として一般市民を巻き込んだ取り組みを行う都市は思い当たらない。(委員)
 - 工場跡地などに新たに整備するような場合だと比較的可能かもしれないが、すでにある都市の中で新たに組み込んでいくのは難しいように思う。(オブザーバー)
 - 市民の取り組みを全面に出したものであるという事で先進性をアピールするのも一つの路線かとも思う。(委員)
 - 派手なケースはたくさんある。トヨタと NTT が協力して富士山のふもとに先進都市を築くような。だが、西宮市はそうではない。(委員)

5. その他

- 次回(第3回)部会は10月5日(月)午後1時半より開催予定。

【配布資料】

- 資料1 令和2年度年間スケジュールについて
- 資料2 令和2年度地球温暖化対策関連事業(予定)について
- 資料3 省エネ行動モニター事業分析結果(中間報告)
- 資料4 第二次西宮市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の目標設定について